



県平和委員会、30周年記念誌の発刊進む

記念レセプションも準備中! 参加大歓迎です!

茨城県平和委員会は1991年12月に「再々建」され、2021年に30周年を迎えました。この年に「記念ボールペン」を作製し、多くの方々にご協力を頂きました。そのほかに記念誌の発刊やレセプションの挙行なども提起されていましたが、新型コロナ禍の問題もあり、具体化が伸び伸びとなっていました。この間、篠原事務局長と相沢(そうざわ)編集担当を中心にして「30年(1991年～2022年)記念誌」の編集を進めてきました。3月に入って最終段階に入りました。4月中には発刊の予定です。

■活動を記録した写真を中心に編集の記念誌1,000部作製



▲30周年記念誌

記念誌は「A4版横型」カラー20ページ。内容は活動した際に撮影した写真を中心に据えて編集しました。表紙は「平和の文化を育てよう」。「代表挨拶」「メッセージ」に続き、「ロシアによるウクライナ侵略戦争に反対」「戦争とパネル展」「百里基地反対の闘い」「沖縄との連帯」「憲法改悪反対」「憲法フェスティバル」「国民平和大行進」「東海第二原発再稼働反対」「秋の平和宣伝活動」「新聞意見広告の取り組み」

「主な出来事と私たちの歩み」「県下に広がる平和の会・平和委員会」という構成です。会員分を含めて1,000冊を印刷の予定です。

茨城県平和委員会30周年記念式典のお知らせ

新型コロナ感染症の蔓延によって、21年に予定していた「30周年記念式典」を下記の日程で開催することになりました。また「30周年記念誌 平和の文化を育てよう」発行準備が整いましたので、式典でご披露します。

会員の皆さん! 集まりましょう! 語り合しましょう。

日程 5月13日(土) 午後1時～3時 ※12時30分開場  
場所 みまつホテル(水戸市宮町2丁目4-26) 水戸駅から徒歩4分  
会費 1人/4千円

尚、当日は「県平和委員会第3回理事会」を午前中(水戸共同ビル 10:00～12:15)おこないます。理事会と式典の同日開催は、第3回常任理事会で決まりました。「水戸共同ビル」から「みまつホテル」までは、ホテルの送迎バスで移動します。理事の皆さんは、午後の式典にもぜひご参加ください。

常任理事会で「安保3文書」について、質問がありました

(前号からの続き)

「安保3文書」について(その2)

「抗堪性」と「継戦能力」は憲法違反「抗堪性」と「継戦能力」については、「国家安全保障戦略」文書の「VI 我が国が優先する戦略的なアプローチ」の中で説明されています。

「抗堪性」は「こうたんせい」と読みます。無料ウェブ百科事典「コトバンク」で調べると「基地や施設が敵の攻撃を受けた場合に、被害を局限して生き残り、その機能を維持する性能をいう」とあります。文書では「主要な防衛施設の強靱化により、防衛力の実効性を一層高めていくことを最優先課題として取り組む」と説明されています。具体的には、自衛隊300基地2万3,000棟を、化学、生物、核兵器などの攻撃に耐えるよう「強靱化」(きょうじんか)することです。防衛省は今後5年間で4兆円を投じ、「主要司令部等の地下化」などをおこない、10年後完成を目指していることが明らかになりました。

■茨城でも具体化が進む

本県も勝田駐屯地、土浦駐屯地、霞ヶ浦駐屯地、古河駐屯地、そして百里基地が対象になっています。岸田政権が

「日本全土の戦場化」を想定していることは明らかです。まさに「軍事栄えて民滅ぶ」、亡国の道です。

「継戦能力」(けいせんのもうりょく)は同「コトバンク」では、「有事の際に組織的な戦闘を継続する能力をいう」そして「弾薬、ミサイル、魚雷などの備蓄が重要である」と説明しています。つまり「継戦能力」は、戦争が長期化することを前提に弾薬、火薬、ミサイル等を備蓄することです。防衛省は23年度予算によって陸自大分分屯地(45億円)、海自大湊地方総監部(7億円 青森県むつ市)に大型火薬庫を新設するなど今後10年間で全国約130棟を整備する計画もっています。いずれも地域住民の生活圏内に建設されます。

■安保3文書は憲法違反

ロシアによるウクライナ侵略を見ても、ロシア軍の攻撃目標はミサイル保管庫や大型火薬庫です。学校や病院、住宅、原発、インフラ設備へのミサイル攻撃なども無差別におこなっています。「抗堪性」も「継戦能力」も「有事」を前提とした施策であり、憲法違反です。断じて許すことはできません。(終わり)

ロシアのウクライナ侵略抗議  
スタンディング!

鹿行平和委員会 + 鹿嶋九条の会  
(鹿嶋在住会員)

## 毎週土曜 (または日曜日) 開催!



鹿嶋九条の会では、4月1日(土)、14時から15時にかけて、鹿嶋サッカースタジアム付近の交差点で、「ロシアのウクライナ侵略抗議」のスタンディングを行いました。いつもは市の中心にあるイオン協の大きな交差点で開催していますが、この日はサッカーの試合があり、たくさんの観客もあることから、スタジアム近くの交差点で行いました。参加者は12人でした。

鹿行平和委員会は銚田市・潮来市・神栖市・行方市と鹿嶋市の5市で構成されています。広い地域ですので、各

市に担当会員を置き、市内を中心とする取り組みでは、その担当会員を中心に他団体と連帯した取り組みを進めています。

鹿嶋市では、ロシアのウクライナ侵略が始まって以来、毎週土曜日から日曜日、午後2時から3時までの1時間、スタンディングと支援カンパを中心とする訴えを行っています。参加者は、おおよそ10人から20人ほどです。

今回は、2人の弁士が交代でハンドマイクを使い、市内やサッカー観戦の人たちに、「戦争反対」「ロシアはウクライナから出てゆけ」と訴えました。さらにこれらを口実にして岸田政権が進めようとしている「戦争する国づくり」のための軍備拡大や、5年間で43兆円にも上る軍事費増大反対を訴えました。



## 「2022年原水爆禁止国民平和大行進の記録」 原水爆禁止茨城県協議会 (県原水協) が発刊!

原水爆禁止茨城県協議会 (県原水協) が、3月、「2022年原水爆禁止国民平和大行進の記録」を発刊しました。

2022年は新型コロナ禍の中、21年度と同様に、平和行進を行って自治体訪問をした地域、また数人の代表による自治体訪問をするなど、地域によって対応が分かれたことが特徴でした。昨年2月に開催された実行委員会では、県を含む45自治体の庁舎訪問、自治体首長との懇談、各地域でのスタンディング、集会・宣伝行動と、県原水協が用意した宣伝カーを運行することなどを決めました。

### ■県原水協のとりのくみ

その後、県原水協は各自治体への平和行進呼びかけと賛同・激励の挨拶要請、世界大会への賛同金の要請の文を作成し、5月上旬、首長、議会議長、教育委員長へ郵送しました。また13日間の宣伝カーの運行に関する道路使用許可の申請と「集団示威行動」の申請を行いました。

6月30日に北茨城で福島県から引き継ぎ集会。翌7月1日から7月13日に千葉県に引き継ぐ、13日間の平和行進です。自治体訪問ができたところでは、全般的に好意的な対応でした。しかし新型コロナの関係から、訪問時の対応は

地域によって対応が分かれました。運動そのものが先細りにならないよう、少なくとも自治体訪問を行い、懇談の場をもうける必要があるといえます。

茨城県は、県原水協から送付した挨拶文をはじめ、メッセージの要請など、すべての書類を、今年もそっくり送り返してきました。他の都道府県ではありえない対応です。今後の適切な対応が必要です。

### ■カラー写真をふんだんに使い、見やすい報告集

記録集は全24ページ。カラー写真をふんだんに使って見やすく編集されています。ペナントの集計、コースの紹介と各地域の行進や集会、自治体訪問時の様子などが写真で紹介され、最後に8つの自治体の首長メッセージも掲載されています。頒布価格や入手方法は以下の通りです。

頒布価格: **1冊500円**。県原水協事務局 (電話029-251-9919) でお求め下さい。また県平和委員会事務局 (電話029-251-2806) でもお受けします。



▼記録集